

## 横紋筋融解症

英語名 : Rhabdomyolysis

### A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ずしも起こるものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

骨格筋の細胞が融解、壊死<sup>え し</sup>することにより、筋肉の痛みや脱力などを生じる「横紋筋融解症<sup>おうもんきんゆうかいしょう</sup>」は、医薬品によって引き起こされる場合があります。主に高脂血症薬<sup>こうしけっしょうやく</sup>、抗生物質（ニューキノロン系）でみられることがあるので、何らかのお薬を服用していて、次のような症状がみられた場合には、放置せずに医師・薬剤師に連絡してください。

「手足・肩・腰・その他の筋肉が痛む」、「手足がしびれる」、「手足に力がはまらない」、「こわばる」、「全身がだるい」、「尿の色が赤褐色になる」

なお、横紋筋融解症は、夏期には脱水や熱中症によりあらわれる場合があります。

## 1. おうもんきんゆうかいしょう横紋筋融解症とは？

おうもんきんゆうかいしょう横紋筋融解症は、骨格筋の細胞が融解、壊死えしすることにより、筋肉の痛みや脱力などを生じる病態をいいます。その際、血液中に流出した大量の筋肉の成分（ミオグロビン）により、腎臓の尿細管がダメージを受ける結果、急性腎不全を引き起こすことがあります。また、まれに呼吸筋が障害され、呼吸困難になる場合があります。

おうもんきんゆうかいしょう横紋筋融解症は多臓器不全などを併発して生命に危険が及んだり、回復しても重篤な障害を残したりする可能性のある危険な副作用です。すみやかな対応（服用中止、輸液療法、血液透析など）により腎機能の保護をはかり、回復の可能性を高める必要があります。

原因医薬品としては、さまざまな種類の医薬品があげられますが、使用頻度の高い医薬品では高脂血症薬こうしけっしょうやく、抗生物質（ニューキノロン系）などが知られています。

## 2. 早期発見と早期対応のポイント

「手足・肩・腰・その他の筋肉が痛む、」「手足がしびれる」、「手足に力がはまらない」、「こわばる」、「全身がだるい」、「尿の色が赤褐色になる」などの症状に気づいた場合で、医薬品を服用している場合には、放置せずにすみやかに医師・薬剤師に相談してください。

また、医療機関を受診する際には、服用している医薬品の種類、服用からどのくらいたっているのかなどを医師に知らせてください。

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。

<http://www.info.pmda.go.jp/>

